
GOD EATER 神の世界に生きる者達

雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G O D E A T E R 神の世界に生きる者達

【Nコード】

N 3 1 4 8 Z

【作者名】

雪風

【あらすじ】

2071年、この地球上はアラガミというなどの生命体に食い荒らされていた。人類は、滅びを待つばかり……。

だが、そこに運命にあらがう者達がいた。その名は「ゴッドイーター」。

そんな世界に、一匹のアラガミを共に飛び込もうとしている少女が居た。

傭兵として最前線と呼ばれる『極東』へ。

なお、原作の流れ使いつつオリジナルの設定を混ぜます。ネタバレ

レになりますので、不愉快になられる方はお戻りください。

プロローグ（前書き）

雪風と申しますが日本人なのに国語が苦手です。もし、誤字などありましたら報告ください。

ブローグ

ここ、どこだろう？

「うーん、このボクの腹の中が適切かも・・・」

だれ？ でもないし・・・ でもない。

「大丈夫、近くに居るけど見えないだけ」

私の質問答えてよ！

「よくそんなこと言えるね。腹の中なのに・・・」

死んでますし・・・

「脆いんだね・・・キミの“形”」

これが、人間なの！というか質問に答えろ！

「神に対しての態度。そんなでいいの？」

神ーっ！？ってそんな風に見えないし。

「そんな反応するの？」

いや、声普通だし。それに、喰われてるなら神だろうがアラガミだろうが一緒だし。

「意外に、肝が据わってる」

うん、だって母さんや父さんがいないし。

「それ、生んだ人間？」

そういった所かな……。ねえ、名前なんてゆうの？

「なまえ？」

自分を表すも。

「キミは？」

。

「綺麗だね。良かったらつけてよ。それ」

名前？いいよ。

そうだね。オラクルはどうか？

「いいね、気に入った。よろしく、」

これで、友達だね。

「友達？」

ごめん、これに関しては分からないんだ。でも、つながりを持つことなんだと思う。

「つながり・・・そういえば、キミが僕らのことを呼んだの?」

呼んだ?どうやって?それって体質のこと?

「おいしい匂いがしたもので寄ってきたらキミが居た。でも、なんでか分かった」

これ、治せる?これのせいで、うちの母さん達や　のお母さんたちも死んじゃったし・・・。オラクルは、神でしょ?

「うん。だからって無くすことはないでしょ。ボクならいい利用が出来るよ」

毎度ながら言いますが、死んでるし。

「でね、　に提案」

?

「キミのこと凄く気に入った。だから、キミの　や　を蘇らせてあげる」

!!

「でも、それには代償が必要なんだ」

だいしょう?

「キミからあげるモノ、かな」

体とか？

「それは、ダメだね」

うーん、記憶と私の命は？

「いいよ。ボクからはボクの命とこの力をあげるよ」

わかった。オラクルに、任せるよ。

「では、改めて。この力と命をあげるからキミの命と記憶を
ちょうだい？」

いいよ、あげるよ。こんなちっぽけな命と記憶でいいのなら。

「ありがとう。じゃあ、おやすみ」

青空が広がる。地上には穴が開いていた。とても大きな穴が。そこに、一人の少女がたたずんでいた。何も着ず、空を見上げて。

「ゆききれい、女の子として服着ないのは、どうかと思うよ？」

12歳ぐらいの金の刺繍が入った真っ白な牧師服の少年が立っていた。ギロリ、目が動く、血のような赤い目。光が入ると妖しく光るが、すでに光っていた。

「だれ？わたしはだれ？」

「キミは、^{わかゆき}若野雪零。ボクは、キミの神機になるオラクル」

「若野雪零？じんき？」

「クラウン、この子がキミの主人だ。言うことを聞くように」と後ろに控える龍型のアラガミに言う。

「了解、しました」

琥珀色の目を持ったアラガミは、どこからか布きれ持ってきて体に巻いた。オラクルは、手をさしのべた。

「キミの姉弟や甥が待ってる。行こうか、もう一人のボク。いや、最強の神を喰らうモノ《ゴットイーター》」

6年後

貴女様を我が極東支部に、南アフリカ支部の傭兵ゴットイーターとしてお招きいたします。なお、貴女様が特殊なアラガミがいるそうですね。良ければその個体持つてきてもらえないでしょうか。研究に、使わされてもらいたい。承諾の上でだが。

あなたは、南アフリカ支部では「逸材」されている。それも新型と言うこと激戦地で　もある極東支部に、戦力としてお招きした次第であります。

「極東も必死でつてことか」

そんな文章片手に、若野雪零は輸送用ヘリの外を見ていた。広がる大地は、昔とは違う。

「あのところは違い。ビルが多いだね」

龍型のアラガミが話しかける。この雪零にとって友達であり、家族あり、相棒である。とブザーが鳴る。

『アラガミ確認、出勤お願いします!』

アナウンスが聞こえる。格納庫に行き、ドアをスライドさせる。風が中に入る。同時にポニーテールがなびき、黒いコートも、また舞う。下を見れば大きな目玉を持った飛行型アラガミ。全部で、五体。

「ザイゴート、女体と卵殻が融合したような、奇怪な形状の飛行型アラガミ。有毒性があるガスをもつ……」

「でも、長旅したせいで『オラクル』お腹ぺこぺこ。ちょうど良い、ご飯だよ。だよね、クラウン。貴方もお腹ぺこぺこだよね。」

「機内食、美味しくないし……」

頷きあうと整備員からあるもの手渡せられる。

黒いハードケース。荒狂う神々を倒す為、作れた武器。神機。

「行こうか。雪零。神を倒しに」

「ああ、そうだね」

と一気に飛び出す。ハードケースに、黒い腕を付けた腕で印を押すように付けるとパカリと開く。出てきたのは漆黒の神機。柄を掴み最初の一体を倒しにかかる。一体、二体と次々に倒す。気がつけば空に一体もいなかった。

ビルに着地する。その横にザイゴートの残骸が落ちる。クラウンは、周り落ちた残骸を食べに入る。雪零は、オラクルを死骸に突き刺す。すると大きな口のような物になる。

「オラクル、おいしい?」

口のようなモノに、荒ぶる神がむさぼり食われている。グシャリ、グシャリと廃墟のビルから音がする。虚空な空を見上げる。

「オラクル、クラウン。ここが大和の国だよ」
クスリと笑う。

滅びた世界を見つめる。

この話は、この世界に生きる者達の話。
そして、この少女がここへ来たことで物語が始まる。
少女を巻き込んだ物語が今始まる！

「ようこそ、に・・・違うか。ようこそ、極東へ」

このオラクル細胞の集合体からなる脅威を、人は「アラガミ」と呼んだ。

アラガミに対して既存の兵器は捕食効果により一切無効であった。既存の軍や政府は無力化し、人々に残されたのは世界の終焉を待つことしかないかと思われた。

そんな時、同じオラクル細胞を埋め込んだ生体兵器『神機』が生化学企業『フェンリル』によって開発される。

そして、自らの体にオラクル細胞を接種し、神機を自らと連結させることでそれを操る特殊部隊、通称「ゴッドイーター」が編成されたのである。

人類は、その崩壊の一手手前で『神を喰らうもの』を手に入れたのである。

ゴッドイーターの任務は、地下居住区に近づくアラガミを撃退し、そのオラクル細胞のコアを素材として持ち帰ること。

しかし、無尽蔵に増殖するアラガミに対する彼らの戦いは、常に死と隣り合わせの苛烈なものであった。

大切な人を守るため、あるいは豊富な報酬を目当てに、様々な理

由で集まったゴッドイーターたちの終りなき戦いが今日も始まる

プロローグ（後書き）

プロローグ、書けたー！

上手に書けませんが一層よろしくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3148z/>

GOD EATER 神の世界に生きる者達

2011年12月10日23時50分発行